



沖縄県立総合教育センター
所 報



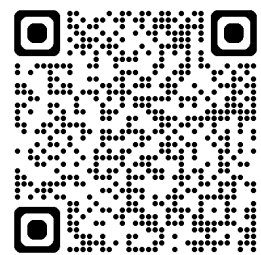
第90号 2024年9月発行

発行者 沖縄県立総合教育センター

所 長 上 江 洲 隆

〒904-2174

沖縄県沖縄市与儀3丁目11番1号



HPはこちらから

調査研究事業

調査研究統一テーマ「令和の日本型学校教育の実現を目指した取組」

本総合教育センターでは、「本県の学校教育の諸課題について調査研究を行い、それらの課題解決に向けた学校力、教師力の向上を図り、幼児児童生徒の『生きる力』の育成を資することを目的」として調査研究を行い、毎年2月初旬に研究発表会を開催しております。この調査研究は、6班から選出されたメンバー12人でチームを編成して取り組む「プロジェクト研究」と、個人や共同で課題を設定して取り組む「個人・共同研究」があります。

今年度から統一テーマが更新され、「令和の日本型学校教育の実現を目指した取組」の下、調査研究に取り組みます。複雑で予測困難な時代の中で、「子供たちに育むべき資質・能力」を育成するためには、学習指導要領の着実な実施、ICTの活用、質の高い教師集団の形成等が必要です。今年度のプロジェクト研究では、下記の研究方針の下、研究を進めているところです。

【令和6年度プロジェクト研究 研究方針】

1. 研究理論は令和6年度プロジェクト研究をベースとしつつ、令和7年度に実践発表を行う。
2. 令和6年度は、理論構築のための一年間とするため、研究協力校・研究協力員は特に設定しないが、理論研究を進めるにあたって必要に応じて対応していく。
3. 令和7年度は、教職員向け・児童生徒向けに、構築した理論を活用した研修・授業を設定する。
4. 令和7年度に実践発表を行うにあたって、研究協力校・研究協力員を設定する。令和7年度当初からの始動を想定して、令和6年度中から設定に向けて調整する（予定）。
5. プロジェクト研究委員のメンバー構成が、小中高特支といった多校種にまたがるため、現時点では研究検証授業対象を特定していない。
6. 研究したことを「成果物」としてまとめ、各学校等に発信する。

また、今年度の「個人・共同研究」は理科研研修班と協働し取り組みます。内容は以下の通りです。令和7年2月7日に開催する「調査研究事業研究発表会」への参加をお待ちしております。

種別	研究テーマ
プロジェクト研究	「持続可能な社会の創り手」としての意識を高揚する教育の充実
共同研究	未来社会を切り拓くための資質・能力の育成 —学習指導要領の着実な実施と各教科の特性を生かした手立てを通して—

教育講演会

調査研究事業の一環として、本県の今日的な教育課題解決へ向けて、今年度は2回の教育講演会を実施します。第1回は9月18日に大妻女子大学家政学部児童学科児童教育専攻の澤井陽介教授による「資質・能力を育成する授業づくりと学習評価」を演題とするオンライン講演会（ライブ・オンデマンド配信）を開催しました。本総合教育センターにおける令和6年度調査研究統一テーマ「令和の日本型学校教育の実現を目指した取組」の「持続可能な社会の創り手」としての意識を高揚する教育の充実についてや、学校教育活動に応用できる教科における授業づくり・評価について、多くの示唆がいただける機会となりました。

第2回の教育講演会は、独立行政法人教職員支援機構（NITS）の荒瀬克己理事長を招聘し、令和7年2月7日に開催します。答申「令和の日本型学校教育の充実」の内容を取り入れ、全校種を対象とした授業作りや評価について、ご講演していただく予定です。

教育講演会（オンライン）へのお申し込み方法は、各学校に届くチラシまたは本総合教育センターWebページをご参照ください。多くの参加をお待ちしております。

「沖縄県教育支援センター等連絡協議会」の取り組み

本総合教育センター教育経営研修班には県内 14 教室が加盟する「沖縄県教育支援センター等連絡協議会」の事務局が設置されています。去る5月の総会で、これまでの名称であった「沖縄県適応指導教室連絡協議会」から名称を変更しました。名称変更の目的は、「適応指導」という言葉の不快感を取り除き、個別最適な教育を保障し学校へ通えない子どもの教育を受ける権利を保障するための整備を一層進めていくためのものです。

増加の一途を辿る不登校児童生徒の数。昨年の10月に発表された「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」において、小・中学校の不登校児童生徒数が約30万人にのぼる報告があり、過去最多であったことがわかりました。また、高等学校における不登校生徒数は約6万人で、前年度から約1万人(18.8%)増加しています。令和5年3月に文部科学省が取りまとめた「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」(COCOLOプラン)では、不登校により学びにアクセスできない子どもたちをゼロにすることを目指し、「不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える」ことを目標の1つにしています。

喫緊の課題に「学校、地域社会、各家庭、NPO、フリースクール関係者等が、相互に理解や連携を強化し子供たちのために、それぞれの持ち場で取組を進め解決へ向け努力する」必要があります。そのためにも、本協議会も教育支援センターの担う役割を研究し、子どもたちへの有意義な支援が実施できるよう取り組んでまいります。

令和6年度事業計画

- ・担当者連絡会（10回）
- ・担当者等研修会（2回）
- ・講演会（入江優子氏招聘）
- ・スポーツ交流会
- ・体験活動交流会
- ・活動展示報告会
- ・いきいき自然体験キャンプ
（渡嘉敷青少年交流の家共催）



第1回研修会（講師：大城政之氏）



担当者会（広島県の取組を学習）



いきいきキャンプ（渡嘉敷）

令和6年度「子どもの心を理解する保護者交流会」

不登校児童生徒支援への取り組みの1つとして、本総合教育センターでは「子どもの心を理解する保護者交流会」を年3回実施しています。催の目的は、教育支援センター等に通級する児童生徒の保護者や不登校児童生徒の保護者がお互いに情報を交換し交流を深める場を提供するとともに、講話等をおして子どもの心を理解し、具体的な支援について、ともに考える機会とするためです。令和6年度の第1回目は、7月7日（日）に実施し、ストレスマネジメントの講話、保護者交流会が行われ、50名近くの参加者がありました。第2回は9月11日（水）15時から開催され、第3回は12月8日（日）14時から、本総合教育センター多目的棟で開催予定です。

不登校児童生徒支援は、保護者への支援も大切な役割となります。「あせらず、一人で悩まず、一緒に考える」保護者交流会を実践してまいります。



第1回交流会の様子



小学校・特支小学部理科の先生方の授業実践力向上！ ～「理科自主講座（エネルギー・粒子・生命領域）」～

4月から6月にかけて小学校理科教員および特別支援学校小学部で理科を担当している教員対象の自主講座を実施しました。理科研修班には、物理・化学・生物・地学の4分野の主事が在籍しており、理科の見方・考え方、実験・実習、観察指導の方法など各分野における専門的な見地からの授業づくり支援を行っています。さらに、家庭科、中学校技術の主事も在籍しています。

4月に第2分野（生命領域）、5月に第1分野（エネルギー領域）、6月に第1分野（粒子領域）について、各主事による専門的な見地からの講義やものづくりを実施しました。今後、9月に第2分野（地球領域）、11月に中学校技術の自主講座を予定しています。

参加者の感想

- ・顕微鏡の扱い方を再確認できて良かったです。観察したときの子どもの気持ちがわかりました。実践的な内容が多く、助かりました。
- ・理科の授業を初めて担当することになりとても不安でした。オンデマンドでも視聴できるので、子ども達とも実験をやりながら、どんどん上達できるように頑張ります。

令和6年度 自主講座

小学校理科

4/12（金）生命領域

5/10（金）エネルギー領域

6/7（金）粒子領域

9/13（金）地球領域

中学校技術

11/29（金）事例・実技研修

自主講座での様子（生命領域において）



①顕微鏡の扱い方を基本から確認



②所内の池でサンプリング



③顕微鏡を使って観察

体験学習教室「親子星空教室」 ～天体ドームの大型望遠鏡で月や金星を観察～

理科研修班では小学4年生以上の親子を対象とした体験学習教室として「親子星空教室」を実施しています。親子星空教室は、夏季と冬季に2回ずつ行っています。夏季シーズンは7月12日（金）と13日（土）に開催しました。両日、親子10組の参加があり、天気にも恵まれました。

プラネタリウム室で解説を聞きながら学習し、工作では12星座入りの星座早見盤と北極星（にぬふあぶし）として有名なこぐま座と北斗七星をプラ板にしてキーホルダーを作製しました。屋上での星座観察は、大型望遠鏡で上弦の月の様子（クレーター）や金星を観察し、小型望遠鏡を使っの星空観察、タブレットアプリを利用し、星座をイメージして楽しみました。今後も、充実した体験学習教室を計画していきます。詳細は各学校等を通じて案内します。皆様のご参加をお待ちしています。



プラ板でキーホルダー作製



プラネタリウム室での講義



望遠鏡やアプリで観察

特別支援学校高等部の取り組みから見るキャリア教育 ～沖縄県立美咲特別支援学校総合教育センター分教室の参観を通して～

1 センター分教室紹介

令和4年4月より本総合教育センターの一部施設を借用した「沖縄県立美咲特別支援学校総合教育センター分教室」（以下、センター分教室）が開設されました。

本島中部にある沖縄県立美咲特別支援学校の幼児児童生徒の在籍数増加による教室環境改善と卒業後の進路として企業就労を希望する生徒への対応を目的として設置され、今年で3年目を迎えます。美咲特別支援学校の近隣高校にも「美里分教室」が開設されていますが、ここでは、「センター分教室」について紹介します。

センター分教室は、美咲特別支援学校のキャッチフレーズ「きれいに咲こうよ！咲かそうよ！」のもと、生徒一人一人がそれぞれの地域で美しい個性豊かな花を咲かせることを目標に、「地域で働くこと・地域で暮らすこと・地域で生活を楽しむこと」ができる未来を目指し、企業就労やその先にある社会自立に向けた教育活動に日々取り組んでいます。

高等部2学年と3学年が在籍し、令和6年度の生徒数は20名（2年生10名、3年生10名）となります。生徒の多くは、徒歩や路線バスの自力通学にチャレンジしており、社会参加に向けた日々の学習を充実させています。

2 前期就業体験報告会の参観を通して

令和6年5月20日（月）から5月31日（金）の10日間、すべての生徒が地域（スーパーやホテル、保育園等）や福祉事業所で前期就業体験に取り組みました。

この時期は、ちょうど梅雨入りの季節でした。連日大雨が続く中、それぞれが自分の希望する就業体験先へ通勤し、希望する職種を体験しました。6月4日（火）には、生徒たちによる報告会に参加することができました。

生徒は、事前に各自のタブレットでプレゼンテーションを作成しており、就業体験先について、自分の目標、取り組んだ内容、印象に残ったエピソードなどを説明していました。生徒、教師、参観者を含め30名ほどの小集団ではありますが、人前に出て報告する緊張感はこちらにまで伝わるものでした。



図1：報告者の話を真剣に聞く生徒の様子



図2：聞き手を意識し、体験談を話す様子

分教室の先生の話によると、日頃は発表に苦手意識を抱いている生徒も、この日はスムーズに臨むことができたそうです。「やりぬいた」という自信や自分の取り組んだことを「伝えたい」という思いが、その生徒の原動力となったのだと思います。報告会が始まる前の生徒たちの緊張した表情が、報告後に安心した顔に変わっていく様子を見て、参観するこちらまで心がほっこりと温かくなりました。また、賞賛の拍手に対して小刻みに頷く姿や、質疑応答タイムで同級生や先輩後輩、参観者からの質問に受け答える様子など、一つ一つの言動から生徒の成長を見て取ることもできました。

生徒たちは報告会の中で、働く上での必要なこととして「あいさつ」「報告・連絡・相談（わからないことは聞く）」「体調管理（体力）」「スケジュール管理（遅刻）」を挙げており、後期就業体験を見据えて、すでに歩みを進めている様子がうかがえました。

学校以外（社会）でそれぞれが地域の方と「かわり」、自分の体験・経験を「ふり返り」、それらが「やりぬく」力となって、生徒が自分の進路について「みとおす」力につながっていく様子を見ることができました。

3 沖縄県のキャリア教育に関する取り組みについて

本県におけるキャリア教育の基本的方向性において、児童生徒に身につけさせたい力として「人間関係形成・社会形成能力（かわる力）」「自己理解・自己管理能力（ふり返る力）」「課題対応能力（やりぬく力）」「キャリアプランニング能力（みとおす力）」の4つが定められています。また、キャリア教育を進めるにあたって「教科を通じた学び」「地域・企業等と連携した体験活動等を通じた学び」「児童生徒の学びをつなぐ」といった3つのポイントが挙げられています。

美咲特別支援学校においても、沖縄県キャリア教育の基本的方向性を意識した取り組みが行われており、特別支援教育班としてセンター分教室における実践をみなさんに知っていただきたくて、紹介させていただきました。美咲特別支援学校の取り組みについて詳しく知りたい方は、学校ホームページ <http://www.misaki-sh.open.ed.jp/> をご参照ください。

「専門高校」ははじめの一步 ～自分×『力』×未来～

本総合教育センター産業教育班では、県立学校教育課産業教育班を主管とする「専門高校におけるキャリア教育の視点での授業プログラム研究チーム」に令和4年度から令和6年度までの3年間参加しています。

本授業プログラムは、学力不足や不本意入学等による専門の学びを目的とせず専門高校へ入学した生徒に対し、専門教科の学習をスタートする前の入学当初に本授業プログラムを実施することで、専門教科の学びに対する意識・意欲を向上させること、また、専門の学びを目的として入学してきた生徒に対しても、自己肯定感を高め、専門の学びに入る段階で必要な「前に踏み出す力」や「考え抜く力」等を引き出すことを目的とし、授業プログラムの開発をしているところです。

プログラムの作成にあたっては、本総合教育センター産業教育班、IT教育班（情報）、理科研修班（家庭）そして、専門高校7学科から15名の先生で研究チームを編成し、ティーチャーズガイド、ワークシート、スライド等の作成に取り組んでいます。

プログラムは、全10テーマ、各テーマ2時間の計20時間で構成され、プログラムの内容や実施時期、実施方法等について検証を行い、令和7年度の本格実施に向け準備に取り組んでいます。



グループワークの様子



模擬授業の様子

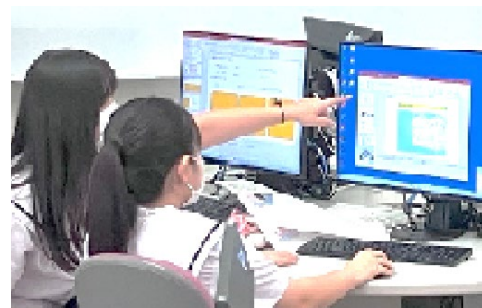
「マネジメント実習」 科学的根拠に基づいたビジネスの提案

ビジネスシステム研究室は、ビジネスに必要な様々なPCソフトを活用すると同時に協働的な学びを通して、ビジネス課題を解決する能力の向上を図るための研修を行っています。生徒実習では、商業科目を履修する生徒を中心に年間1,000名以上を受け入れており、昨年度の夏には4年ぶりに実習教室の機器更新が行われました。整備された機器は、コンピュータ、レゴエデュケーション SPIKE、iPad、Air レジなどで、PCソフト関連ではMicrosoft Office と Adobe Creative Cloud も含まれています。

本研究室では、この実習機器を活用した実習を、教科「商業」の4分野それぞれに対応して開発しました。中でも「マネジメント研修」は、「観光客向けの新規出店計画」を高校生の視点から地域経済分析システム（REASAS）を活用し科学的な根拠に基づいて提案する課題解決型の学習となっています。このプログラムは、商業科目であるマーケティング、簿記・会計、ビジネス情報などを横断的、複合的に学べるように工夫し、4人チームによるプレゼンテーションで競い合えるコンテストにしています。令和5年度の12月から、3年生を中心に受け入れを始め、すでに300名の生徒がこのプログラムを受講しました。

本プログラムの受講後の生徒の振り返りの中には、「学校で学んだビジネスの学習がこのように仕事に活かされるとわかった」など学習した知識と実際のビジネスとのつながりを実感するコメントが記入されていました。さらに、「もっと簿記やマーケティングを学習し直したい」「クラスメイトのような提案力を身につけたい」など学習の自己調整を表す記述もみることができました。

今後は、整備された機器及びPCソフトを活用して、さらに研修プログラムをアップデートし、生徒実習を通じて、ビジネスで活躍できる人材の育成に努めていきます。



REASASによる新商品の検討

令和6年度 小中学校教職員対象 ICT 研修について

今年度、IT教育班で開催する小中学校教職員対象「ICT教育研修」について紹介いたします。下記一覧のとおり研修を実施いたしますが、例年と異なり今年度後半実施研修では、小学校教員及び中学校技術分野担当教員（地区指定あり）を対象とした「プログラミング教育研修」を実施いたします。詳細につきましては研修開催日2か月前頃に実施要項等で案内をいたします。多くの先生方のご参加をお待ちしております。

期日	研修名	研修概要	対象	期日	研修名	研修概要	対象
4/18	校務支援システム講座①	システム運用・基本操作研修	県立中対象	11/6	授業におけるICT活用講座②	②クラウドを活用した授業ICT活用について ※小中学校ICT初心者対象です <会場> ・那覇地区会場：総合教育センター ・八重山地区会場：八重山商工高校 ・国頭地区会場：名護商工高校 ・島尻地区会場：総合教育センター	応募研修 那覇地区
5/14・16・ 17・20・24・ 28・30	教育の情報化推進講座	学校現場における教育の情報化の推進について	悉皆 全地区対象	11/8			応募研修 八重山地区
6/21・26・28	校務の情報化推進講座ABC	学校DXにむけた校務の情報化の推進について	応募研修	11/19			応募研修 国頭地区
10/29	授業におけるICT活用講座①	プログラミング教育(計測・制御システム) ※中学校技術・小学校プログラミング(高度)対象 <会場> ・宮古地区会場：宮古工業高校 ・中頭地区会場：総合教育センター	応募研修 中頭地区 小中教員	11/22			応募研修 島尻地区
10/30			応募研修 中頭地区 小中教員	11/29	中学校ICT教育講座	プログラミング教育(計測・制御システム) ※中学校技術分野担当者対象	応募研修
11/1			応募研修 宮古地区 小中教員	12/5	小学校ICT教育講座	プログラミング教育(初級) ※教材の紹介・演習を行います	応募研修
				3/19	校務支援システム講座②	システム運用・年次更新操作研修	県立中対象

教育の革命

～生成AIで教員の業務効率を向上させる～

生成AI（ChatGPT など）の登場により、教育は加速度的に進展しています。生成AIは教育現場において多くの可能性を秘めており、教師や生徒の学びをサポートする強力なツールとなり得ます。しかし、多くの学校では生成AIの教育活用が進んでおらず、具体的な使い方に困惑しているのが現状です。2023年7月に文部科学省が発表した「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」では、生成AIを教育支援ツールとして活用するための基本的な考え方が示されています。ガイドラインでは、生成AIの利便性を生かしつつ、個人情報流出や偽情報の拡散などのリスクに注意を払うことが強調されています。また、生徒に生成AIを使用させる際には、AIが生成する情報の正確性や限界を理解させることが重要であり、教師自身も一定のAIリテラシーを持つ必要があるとされています。

教育現場での生成AI活用の提案としては、まず教師自身が生成AIを使ってみて、その教育的効果について検証することが重要です。これにより教師が生成AIの可能性を探り、生徒に効果的に導入するための方法を見つけることができます。業務での活用事例としては、生成AIを授業の補助ツールとして活用し、生徒の質問に迅速に対応することや、個別の学習支援を行うことが考えられます。

最後に、生成AIの活用は以下の例で示すように大きな可能性を秘めており、その導入と効果的な利用が求められています。教師と生徒が共に学びながら生成AIを活用することで、より豊かな教育環境を築いていくことができます。IT教育班では、研修等で生成AIの活用を推進していきます。

教員の業務効率を向上させる生成AIの活用方法（例）

日常業務での活用	・メールの返信効率化・議事録の作成・アンケート作成・書類作成 など
教育業務での活用	・保護者対応のロールプレイ・学校行司のプランニング・所見の作成 など
教師が活用	・授業計画の相談・わかりやすい説明作成・教材や問題の作成 など
授業での活用	・個別の問題出題・学びの深化・実験結果の考察・道徳教育での意見集約 など
生徒が活用	・AI家庭教師・英会話の練習・志望理由書の作成・部活動メニュー作成 など

令和 6 年度 前期・離島長期研修研究報告会

令和 6 年度前期・離島長期研修研究報告会が 9 月 4 日(水)～5 日(木)の日程で、本総合教育センターで開催されました。長期研修員 15 名が各自のテーマに基づき、教育課題の解決に向けて熱意のある報告を行いました。この研究報告会から、研究成果が実りある研究だったことが伝わってきました。この研究成果を教育現場でこれから還元していくことを期待し、下記に研修の感想を掲載します。

自己研鑽できる教師を目指して

教科研修班 沖縄市立安慶田中学校 教諭 比嘉 司



4 月からの長期研修を振り返ると、自分自身のこれまでの教育実践について考えさせられることが多々ありました。それと同時に、様々な校種のメンバーでの研修がとても有意義なものであり、時には研修を行っていることも忘れるくらいでした。素晴らしい研修員と共に行った検討会等を通して、自分自身のやりたいことが次第に形になっていくことが、とても新鮮でした。各種の研修を通して得た知識をインプットするだけではなく、研修員同士でアウトプットしていくことで、自分の教育観がアップデートされていくような気がしました。

これからまた現場に戻り、自分で考え、計画して行動に移すことのできる生徒を育成していくために、自分自身も他の職員と協力して切磋琢磨しながら、センターで学んだことを子供たちに還元していきたいと思います。

前期長期研修を終えて

理科研修班 那覇市立石田中学校 教諭 上里 拓也



理科研修班の長期研修員として、理科における「自由進度学習」をテーマに、生徒の主体性を育むことができる授業を目指し、研究を進めました。日々の研修では、様々な校種や教科の先生方と交流することで、今までの授業実践を見直し、新たな知見を得るなど、とても充実した日々を過ごしてきました。また、班長をはじめ主事の皆様には、様々な場面でご指導やサポートをして頂き、とても感謝しています。

今後も、与えられた貴重な時間を大切に、研修で学んだことを子どもたちへ還元できるよう研鑽に励んでいきたいと思います。

感謝！感謝！

特別支援教育班 恩納村立山田小学校 教諭 湧川 仁美



私にとって長期研修は、これまでの自分の実践を振り返る貴重な時間となりました。たくさんの素敵な人や文献との出会いは、私の心にある「やってみたい」を引き出し、「こんな授業がしたい」という思いを奮い立たせてくれました。楽しかった授業づくり、報告書作成のためにパソコンに向かって悩んだ日々は、私の心の財産です。私の研究をいつも支えてくれた山田小学校の先生方、保護者の皆さん、互いに励まし合い頑張った研修員の皆さん、上江洲所長をはじめ、班長、主事の皆様に心から感謝申し上げます。今回学んだことを、子ども達に還元できるようこれからも頑張っていきます。